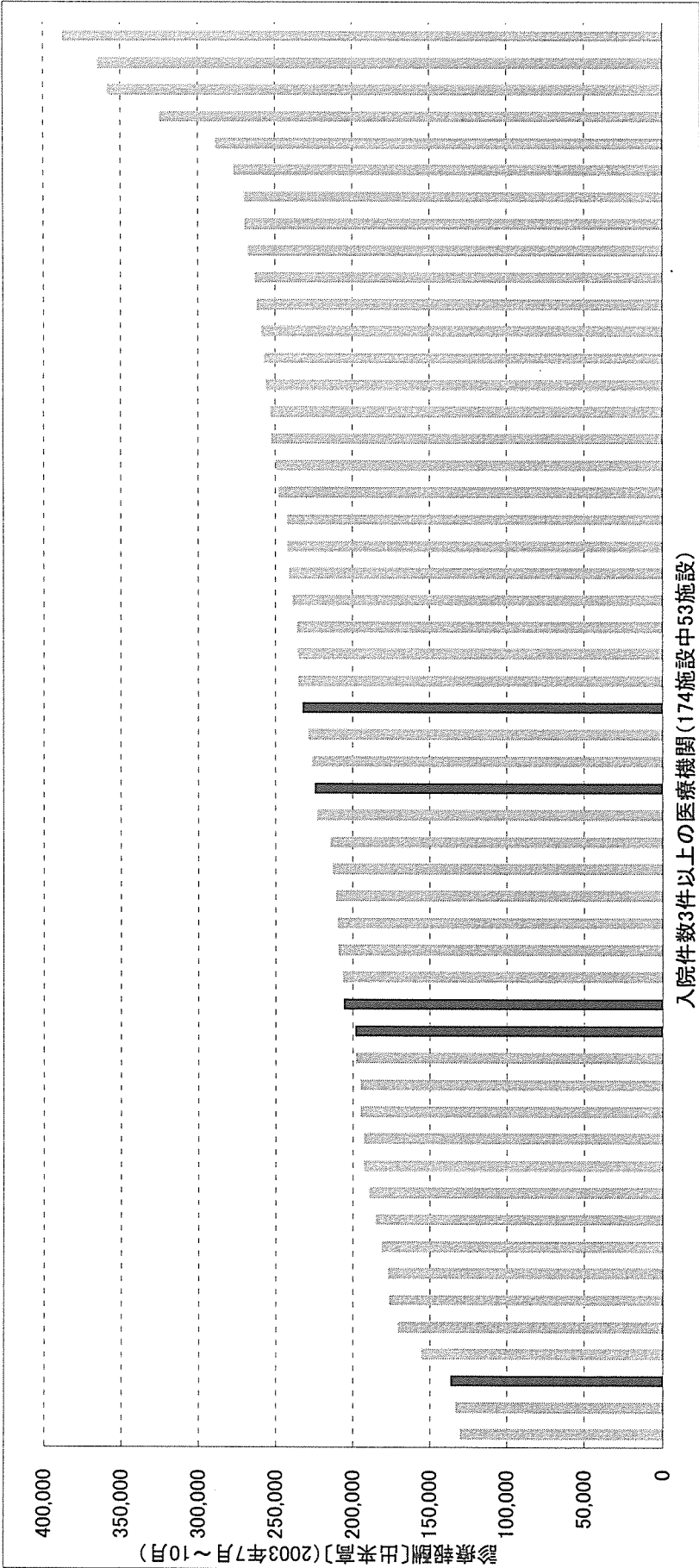


心臓血管外科専門医認定機構難易度A指定の先天性心疾患における一入院当たり診療報酬〔出来高〕平均値 (N = 326)

解析対象DPC番号の範囲		1402903および1403003および1403103および1403403および1403603										
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセントイル						
		5	10	25	50	75	90	95				
動脈管開存症/心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/ 非短絡性心奇形/新生児乳児の先天性心疾患	診療報酬[出来高]	229,966	52,612	130,467	387,311	148,042	176,466	195,091	228,681	255,866	275,583	338,030
	特定機能病院(48施設)[出来高換算総点数]	233,129	53,225	130,467	387,311	160,945	176,925	194,977	235,261	257,464	280,437	346,405
	その他の参加病院(5施設)[出来高制度の総点数]	199,596	37,743	136,736	232,450	149,044	161,352	198,277	205,905	224,614	229,315	230,883



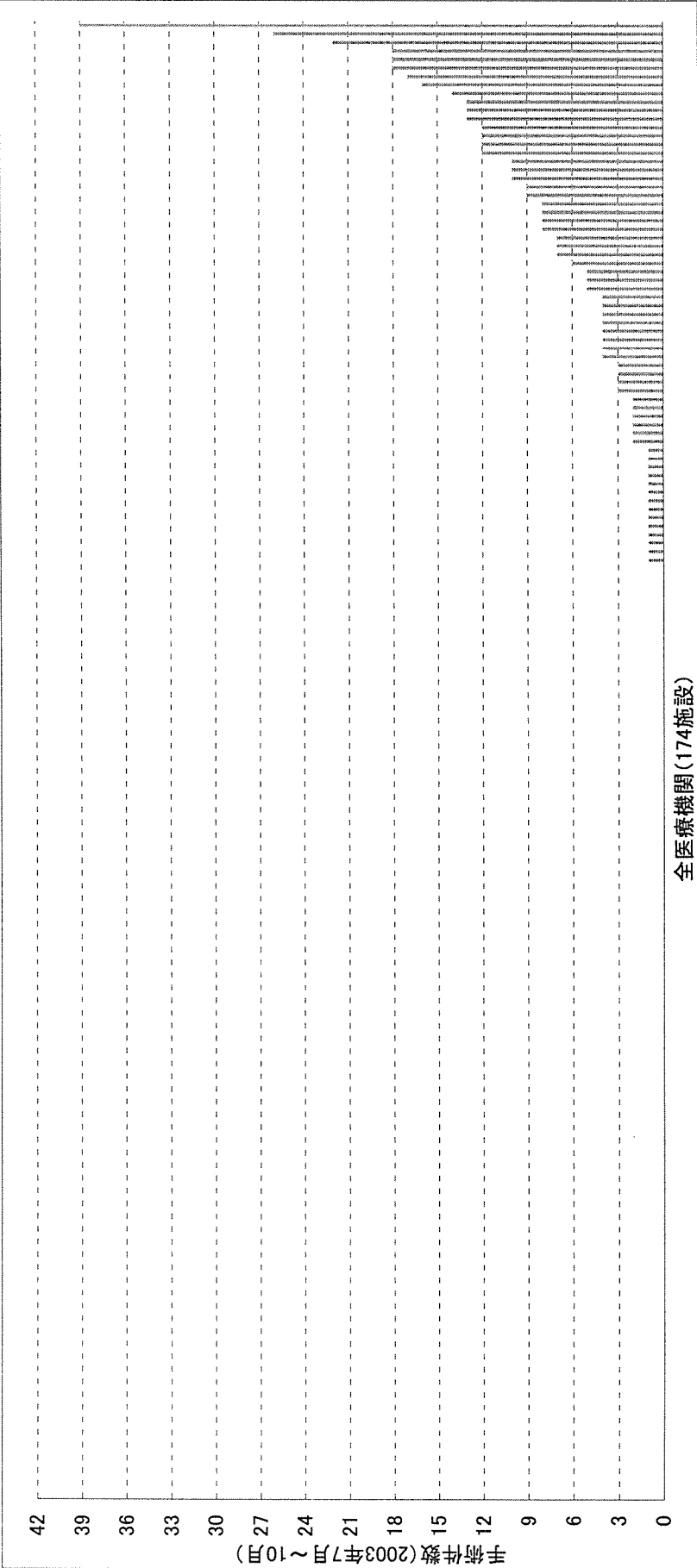
【図の説明】 外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(3件以上)の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。
:特定機能病院
:その他の参加病院

【コメント】
・概ね150,000点から300,000点の間をとっていた。

心臓血管外科専門医認定機構難易度B指定の先天性心疾患の手術件数

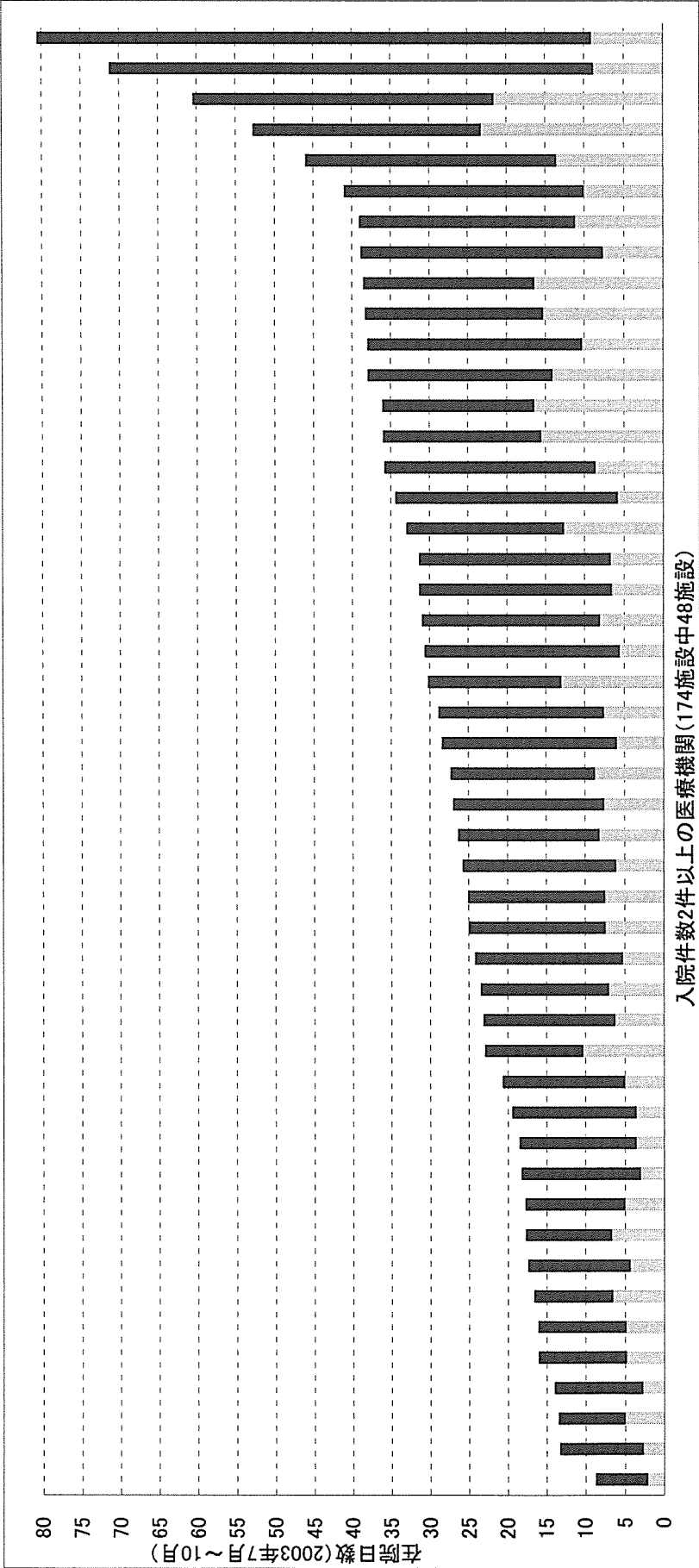
解析対象DPC番号の範囲：1403103および1403203および1403303および1403403および1403503および1403603および1403703

分類名	解析内容	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/房室中隔欠損症/その他の左右短絡性心奇形/非短絡性心奇形/アロー-四徴症/新生児乳児の先天性疾患/その他の複雑心奇形	心臓血管外科学会難易度B指定の先天性心疾患の手術件数	467	3	6	0	39	0	0	0	0	3	10	13



心臓血管外科専門医認定機構難易度B指定の先天性心疾患における平均在院日数(N = 409)

解析対象DPC番号の範囲1403103および1403203および1403303および1403403および1403503および1403603および1403703										パーセンタイル				
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95		
心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/房室中隔欠損症/その他の左右短絡性心奇形/非短絡性心奇形/フロロ-四徴症/新生児乳児の先天性心疾患/その他の複雑心奇形	在院日数	36.8	54.9	8.7	399.7	13.7	16.1	19.3	27.9	36.5	42.5	57.8		
	術後在院日数	28.4	54.2	6.6	390.7	10.3	11.2	15.2	19.6	24.9	31.1	36.6		
	術前在院日数	8.5	4.7	2.1	23.3	2.8	3.5	5.2	7.4	10.3	15.3	16.4		



【図の説明】

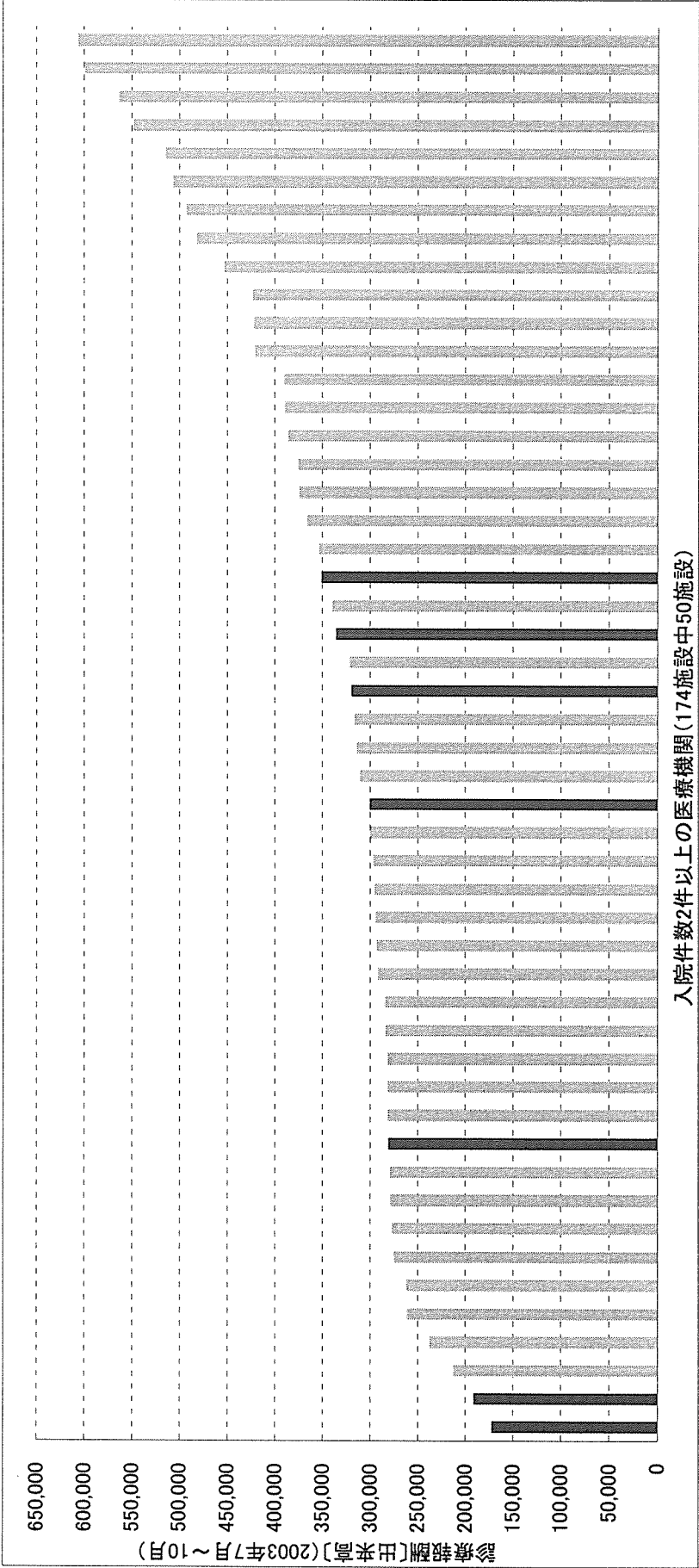
外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(2件以上)の施設を解析対象とした。(最も在院日数の長かった施設は80日で切った)
■:術後在院日数
▨:術前在院日数

【コメント】

- ・平均在院日数は概ね20日から40日であった。
- ・最も在院期間の長かった施設は399.7日であった。

心臓血管外科専門医認定機構難易度B指定の先天性心疾患における一入院当たり診療報酬〔出来高〕平均値(N = 450)

解析対象DPC番号の範囲1403003および1403103および1403203および1403303および1403403および1403503および1403603および1403703														パーセンタイル				
分類名	解析内容			平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95				
心室中隔欠損症/心室中隔欠損症/房室中隔欠損症/その他の左右短絡性心奇形/非短絡性心奇形/フロアー四徴症/新生児乳児の先天性心疾患/その他の複雑心奇形	診療報酬〔出来高〕			349,643	102,252	172,392	605,773	223,753	262,040	281,553	315,204	389,545	506,844	556,019				
	特定機能病院(43施設)〔出来高換算総点数〕			361,201	102,554	212,659	605,773	261,448	275,596	282,926	316,177	421,246	512,910	561,043				
	その他の参加病院(7施設)〔出来高制度の総点数〕			278,650	70,197	172,392	350,961	178,010	183,628	235,963	300,075	327,597	341,761	346,361				



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(2件以上)の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

■: 特定機能病院

□: その他の参加病院

【コメント】

・出来高の診療報酬は、300,000点前後のものが多く、約170,000点から約800,000点まで難易度Aのものに比べて施設によるバラツキが大きくなった。

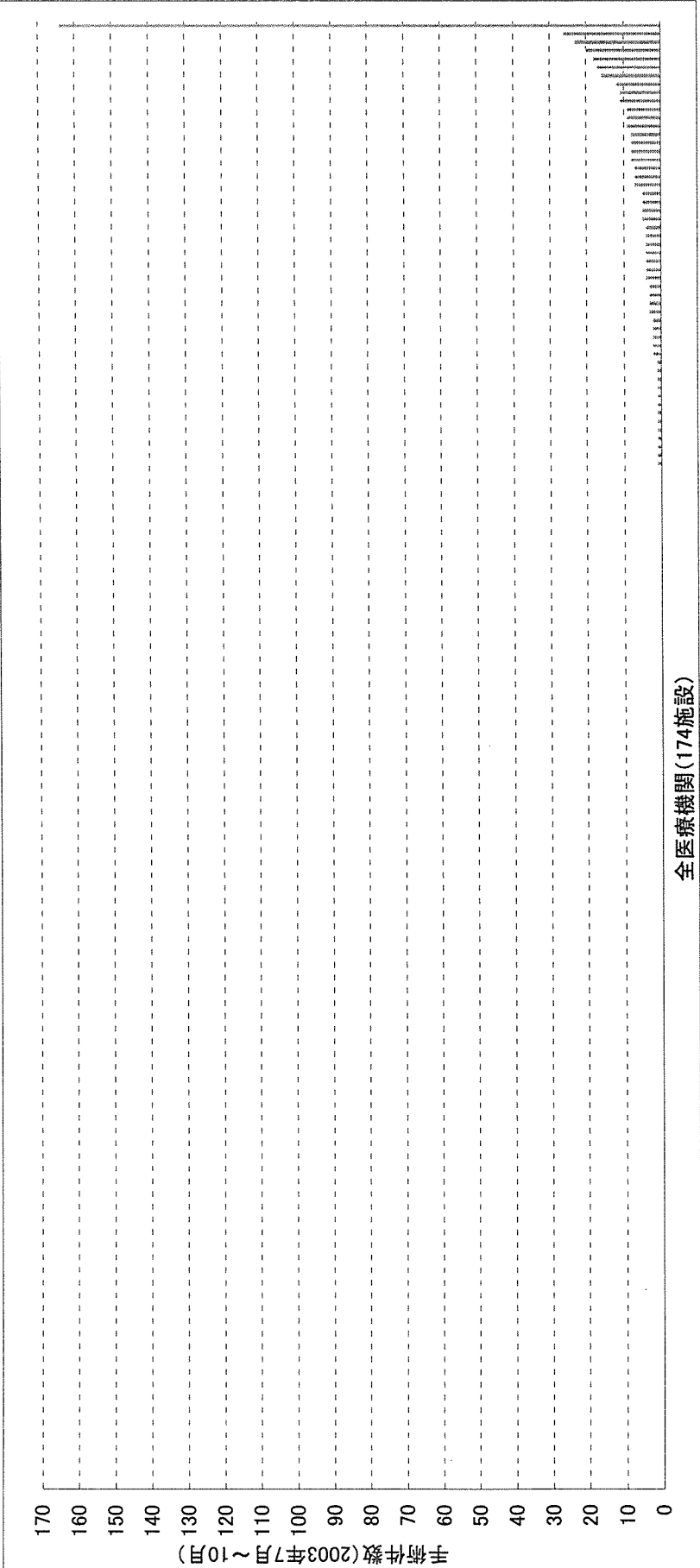
心臓血管外科専門医認定機構難易度C指定の先天性心疾患の手術件数

解析対象DPC番号の範囲1403003および1403103および1403203および1403303および1403403および1403503および1403603および1403703

解析対象DPC番号の範囲1403003および1403103および1403203および1403303および1403403および1403503および1403603および1403703													パーセンタイル				
分類名	解析内容	全件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値											
							5	10	25	50	75	90	95				
区間中區外増症/小中區外増症/区間中區外増症/本		481	3	13	0	164	0	0	0	0	1	7	11				

心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/房室中隔欠損症/その他の左右短絡性心奇形/非短絡性心奇形/アロー-四徴症/新生児乳児の先天性心疾患/その他の複雑心奇形

心臓血管外科学会難易度B指定の先天性心疾患の手術件数



全医療機関(174施設)

【図の説明】

手術件数(難易度C)

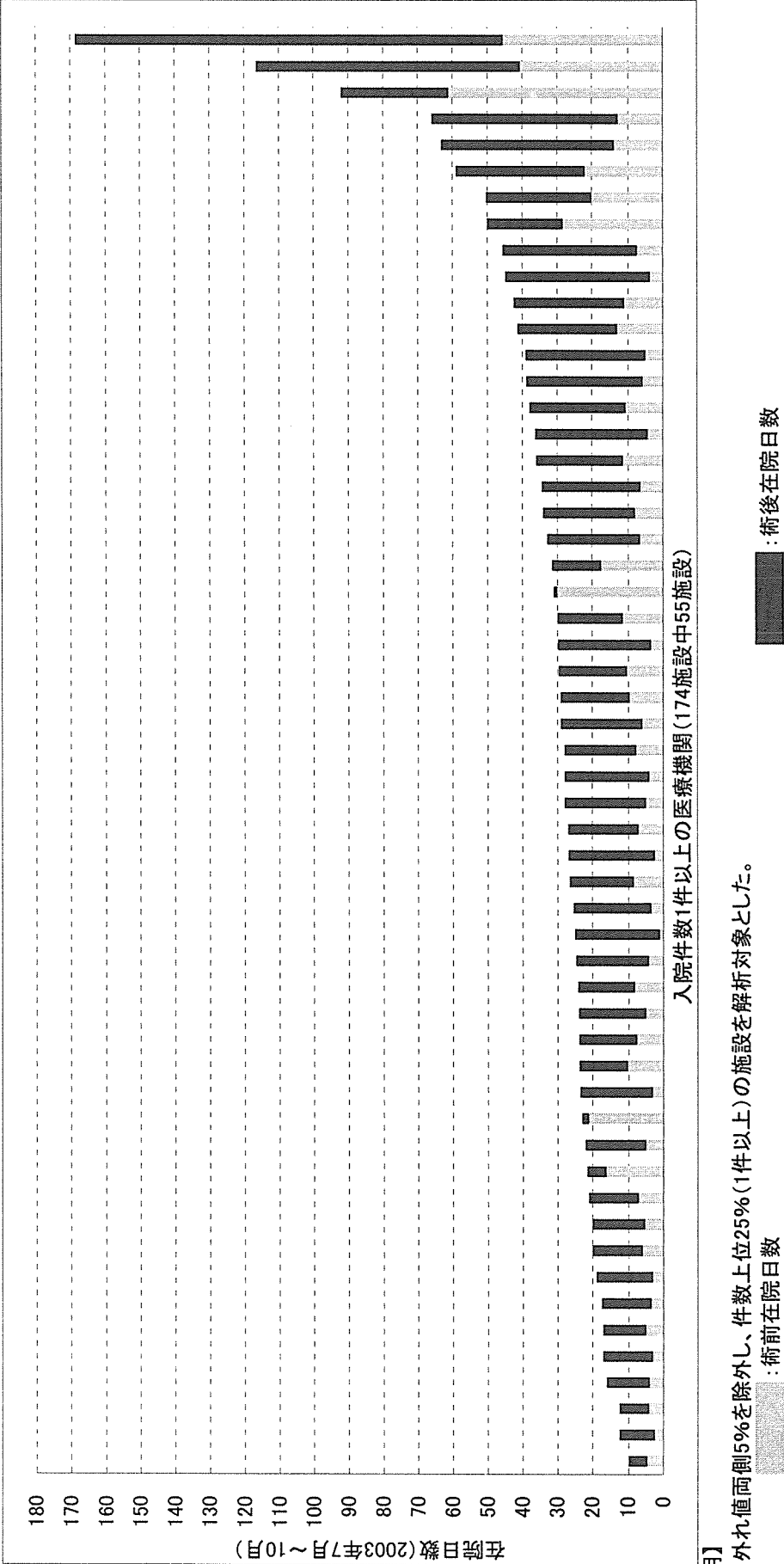
【難易度Cに含まれる手術術式】 TOF修復術、TGA手術、DORV手術、TAPVR手術、ECD(complete)手術、Fontan型手術、Truncus手術、Ebstein病手術、単心室症手術(心室中隔造成術)、大動脈中隔欠損閉鎖術、大動脈弁上狭窄手術、大動脈弁下狭窄手術、冠状動脈起始異常症手術、CoA(Complex)手術、末梢肺動脈形成術

【コメント】

- 先天性心疾患の手術件数は、MDC14の全件の約16%を占めていた。難易度Cの手術は全先天性心疾患の約37%であった。
- 全体の30%(53施設)において1件以上の手術が見られた。
- 全体的な死亡率は10%であった。

心臓血管外科専門医認定機構難易度C指定の先天性心疾患における平均在院日数(N = 277)

解析対象DPC番号の範囲1403003および1403103および1403203および1403303および1403403および1403503および1403603および1403703										パーセンタイル				
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95		
心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/房室中隔欠損症/その他の左右短絡性心奇形/非短絡性心奇形/アロー四徴症/新生児乳児の先天性心疾患/その他の複雑心奇形	在院日数	35.4	26.0	10.0	168.5	15.0	17.2	23.3	28.0	38.3	55.5	73.8		
	術後在院日数	24.6	18.6	1.0	123.0	5.5	10.8	14.4	20.6	28.1	37.8	50.5		
	術前在院日数	10.8	11.4	1.0	61.0	2.9	3.2	4.2	7.0	11.5	21.6	33.2		

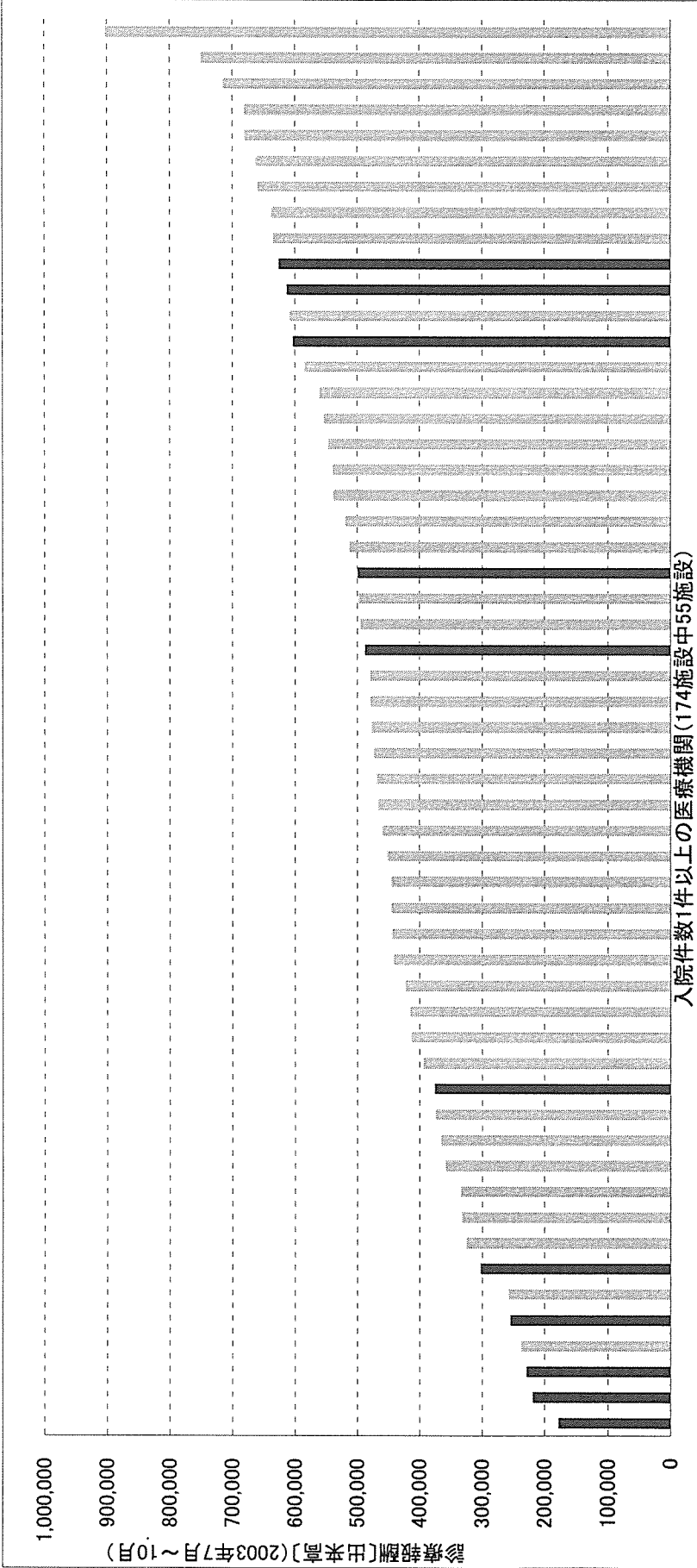


【コメント】

- 施設により術前も術後も長いところがあった。
- 難易度Cの先天性心疾患の術後在院日数は死亡件数の割合などに大きく影響を受ける。

心臓血管外科専門医認定機構難易度C指定の先天性心疾患における一入院当たり診療報酬〔出来高〕平均値(N＝346)

解析対象DPC番号の範囲1403003および1403103および1403203および1403303および1403403および1403503および1403603および1403703												パーセンタイル				
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95				
心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/房室中隔欠損症/その他の左右短絡性心奇形/非短絡性心奇形/ファロー四徴症/新生児乳児の先天性心疾患/その他の複雑心奇形	診療報酬〔出来高〕	480,187	146,722	178,320	901,239	234,913	275,103	384,763	476,269	572,094	660,795	690,201				
	特定機能病院(44施設)〔出来高換算総点数〕	500,499	134,244	237,311	901,239	326,180	340,901	420,843	477,174	566,277	674,161	709,525				
	その他の参加病院(11施設)〔出来高制度の総点数〕	398,940	172,276	178,320	625,388	198,941	219,562	242,184	375,632	551,071	613,042	619,215				



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(1件以上)の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。
■:特定機能病院
□:その他の参加病院

【コメント】

・出来高の診療報酬は500,000点を中心にばらついていた。ただし、手術件数1件のものも含んでいる。

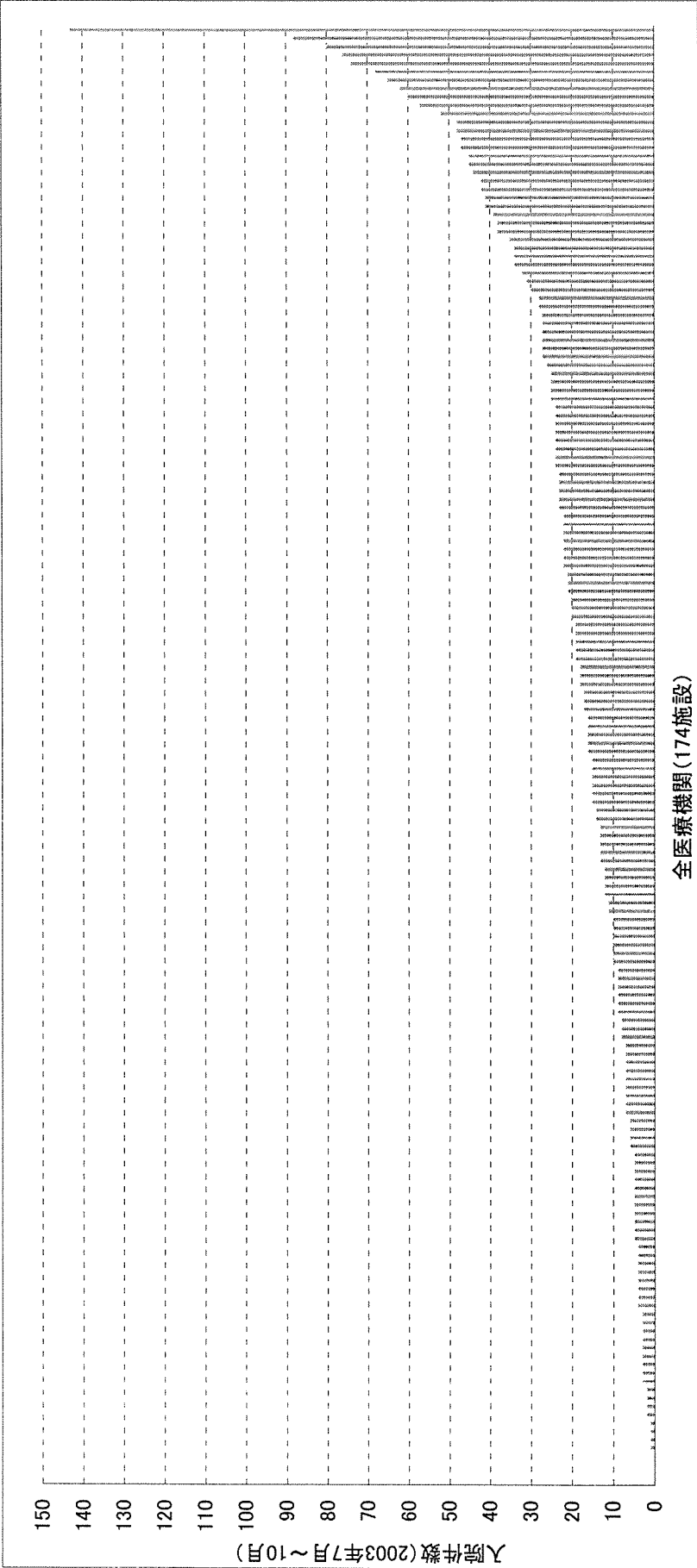
MDC15

小兒疾患

ウイルス性腸炎の入院件数(検査入院を含む)

解析対象DPC番号の範囲 1500101/ 1500103

分類名	解析内容	入院件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル					
							5	10	25	50	75	90
ウイルス性腸炎	ウイルス性腸炎の入院件数(検査入院を含む)	3,472	20.0	19.5	0	143	2	3	6	16	25	43
												58



全医療機関 (174施設)

【図の説明】

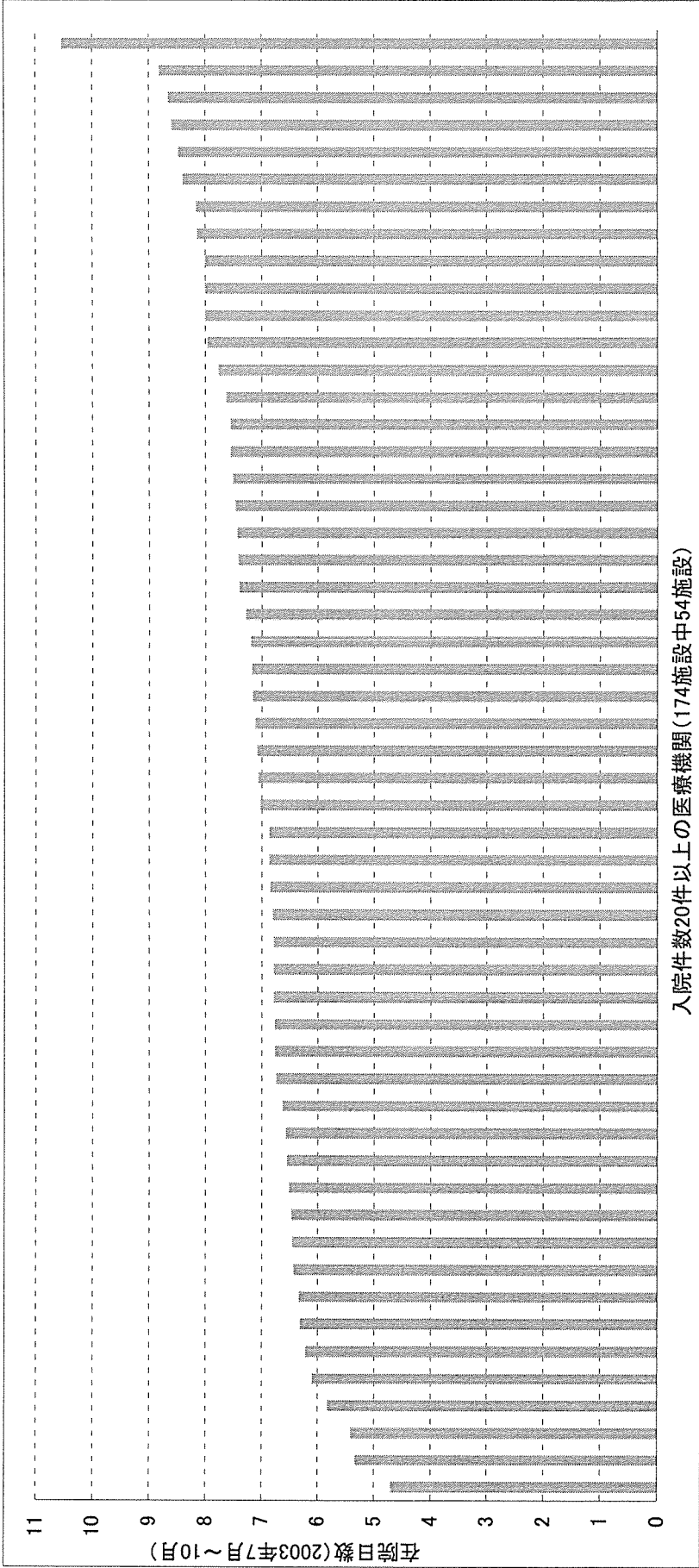
：ウイルス性腸炎(検査入院を含む)の入院件数

【コメント】

- ・ウイルス性腸炎(検査入院を含む)の入院件数は、MDC 15の全入院件数の約62%を占めていた。
- ・ウイルス性腸炎(検査入院を含む)の入院件数1件以上の医療機関は169施設(全体の97%)において見られた。
- ・ウイルス性腸炎(検査入院を含む)の入院件数が多い医療機関は、特定機能病院よりその他の参加病院の方に多く見られた。

ウイルス性腸炎における平均在院日数(検査入院含む) (N = 2,338)

解析対象DPC番号の範囲		1500101/ 1500103		パーセンタイル										
分類名	解析内容			平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
ウイルス性腸炎	ウイルス性腸炎の在院日数(検査入院含む)			7.2	1.0	4.7	10.5	5.7	6.3	6.6	7.1	7.6	8.3	8.6



【図の説明】

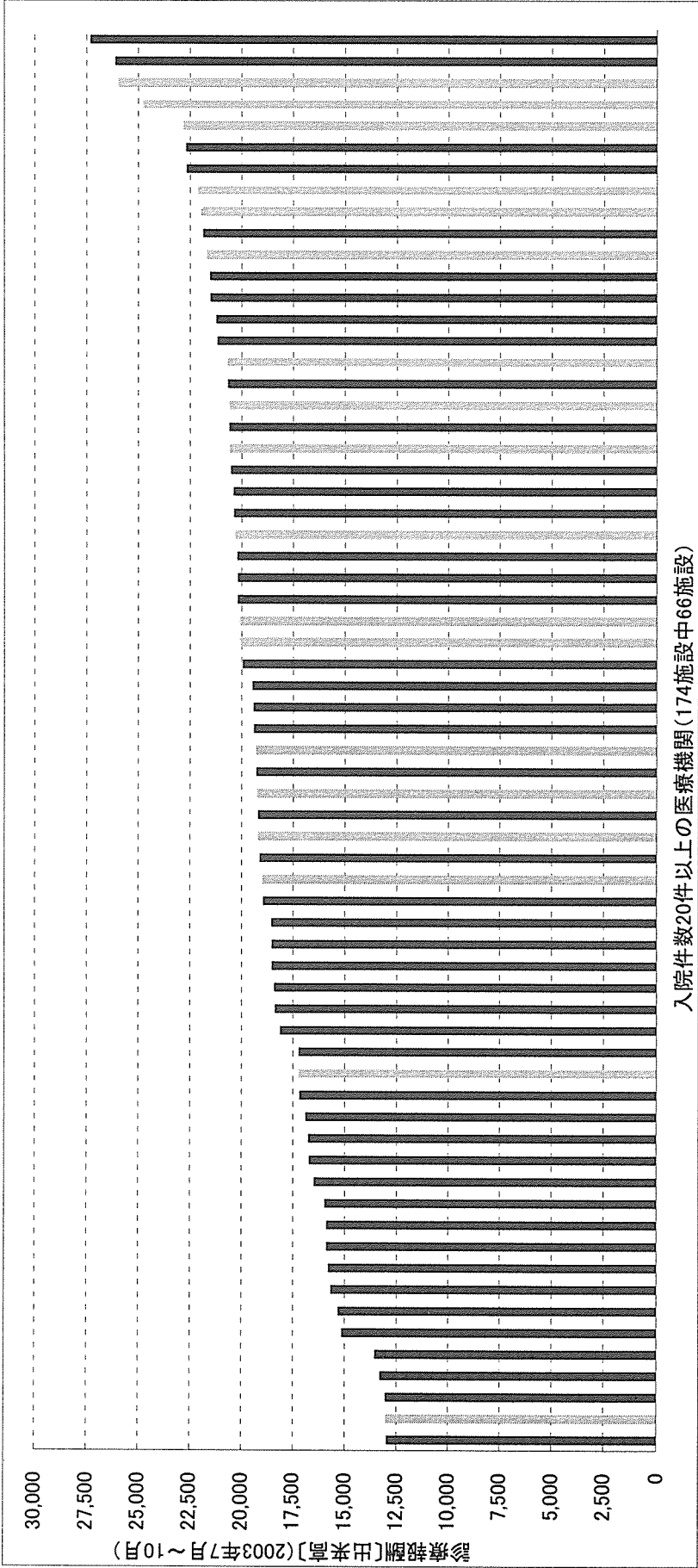
外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。
■ :ウイルス性腸炎(検査入院を含む)の平均在院日数

【コメント】

・ウイルス性腸炎(検査入院を含む)の平均在院日数は、ほとんど均一であった(4.7日から10.5日)。

ウイルス性腸炎(検査入院含む)における一入院当たり診療報酬[出来高]平均値(N = 2,424)

解析対象DPC番号の範囲		1500101/ 1500103											パーセンタイル				
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95					
ウイルス性腸炎	診療報酬[出来高]	19,200	3,059	12,966	27,328	13,363	15,490	17,207	19,357	20,657	22,394	24,275					
	特定機能病院(18施設)[出来高換算総点数]	20,479	2,806	13,020	25,961	16,583	18,442	19,263	20,435	21,916	23,398	24,943					
	その他の参加病院(48施設)[出来高制度の総点数]	18,720	3,039	12,966	27,328	13,388	15,265	16,670	19,039	20,441	21,641	22,692					



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

■: 特定機能病院

■: その他の参加病院

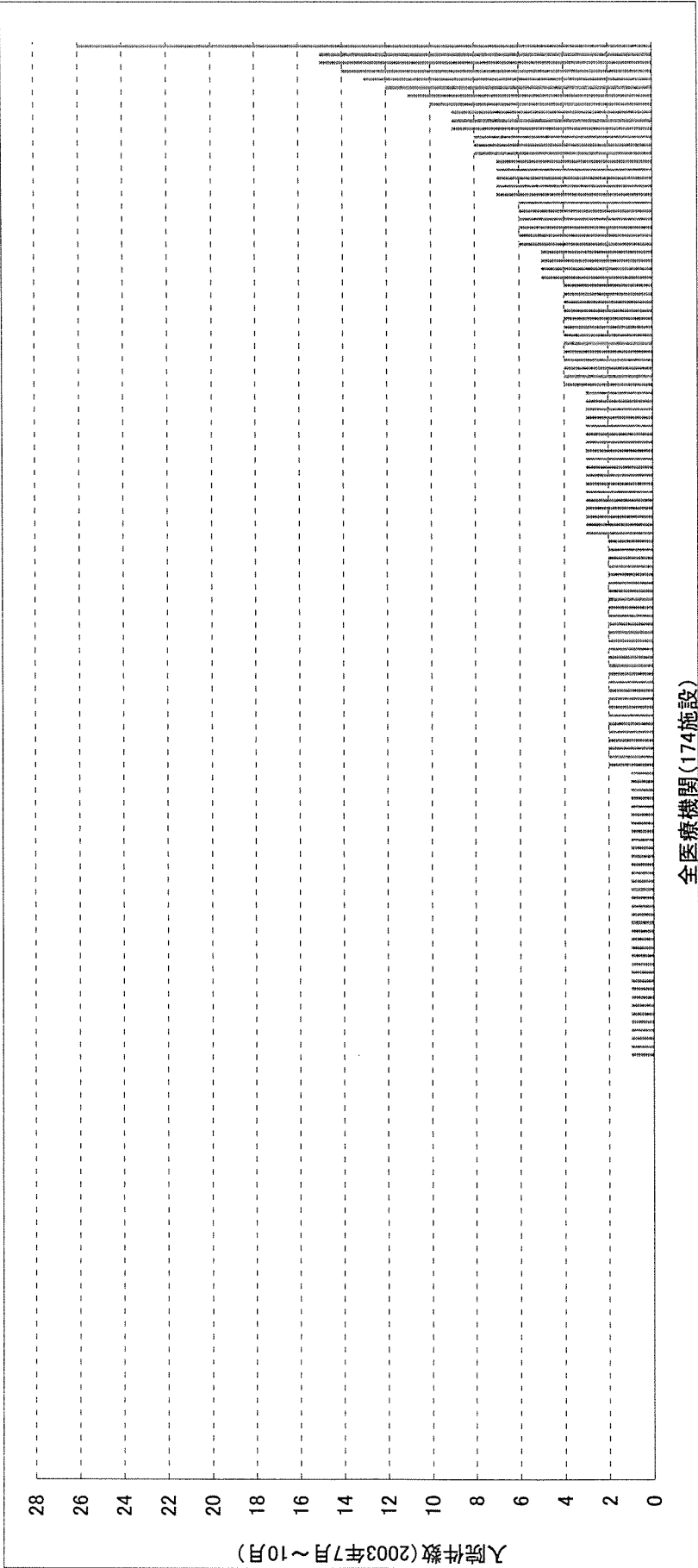
【コメント】

・ウイルス性腸炎(検査入院含む)の一入院当たり診療報酬[出来高]は、特定機能病院の方が高い傾向にあった。

ウイルス性髄膜炎／急性脳炎・急性脳症の入院件数

解析対象DPC番号の範囲 150050/ 150030

分類名	解析内容	入院件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
							5	10	25	50	75	90	95
ウイルス性髄膜炎／急性脳炎・急性脳症	ウイルス性髄膜炎／急性脳炎・急性脳症	455	2.6	3.5	0	26	0	0	0	2	3	7	9



全医療機関(174施設)

【図の説明】

：ウイルス性髄膜炎／急性脳炎・急性脳症の入院件数

【コメント】

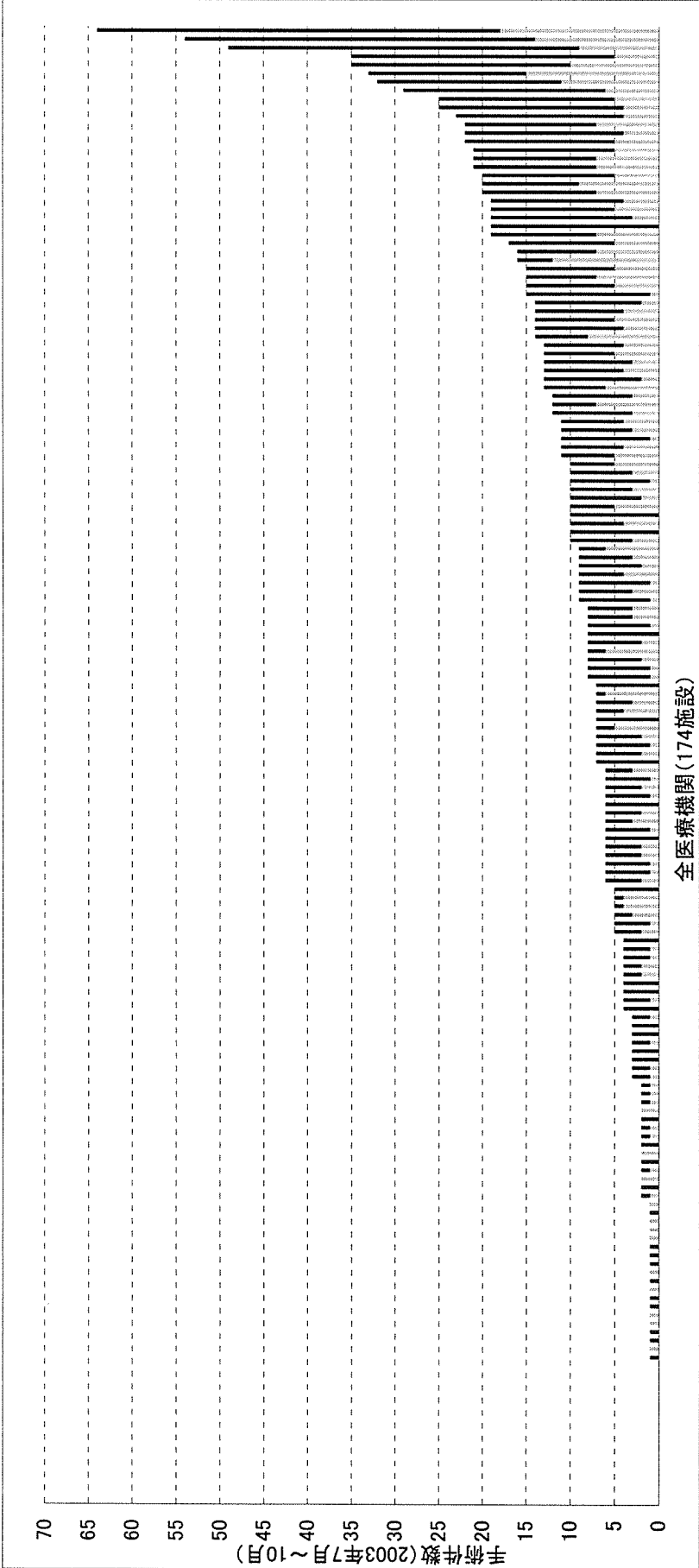
- ・ウイルス性髄膜炎／急性脳炎・急性脳症の入院件数1件以上の医療機関は123施設(全体の71%)において見られた。
- ・ウイルス性髄膜炎／急性脳炎・急性脳症の入院件数は、医療機関でバラツキがあった。

MDC16

外傷・熱傷・中毒、異物、
その他の疾患

股関節大腿近位骨折(全部位)における手術施行件数

解析対象DPC番号の範囲 1608003														パーセンタイル					
分類名	解析内容		手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95					
股関節大腿近位骨折	骨折観血の手術		1,111	6.6	7.8	0	46	0	0	1	5	9	15	20					
	人工骨頭挿入術		451	2.6	3.1	0	18	0	0	0	2	4	6	7					



【図の説明】

人工骨頭挿入術[DPC手術コード:01]

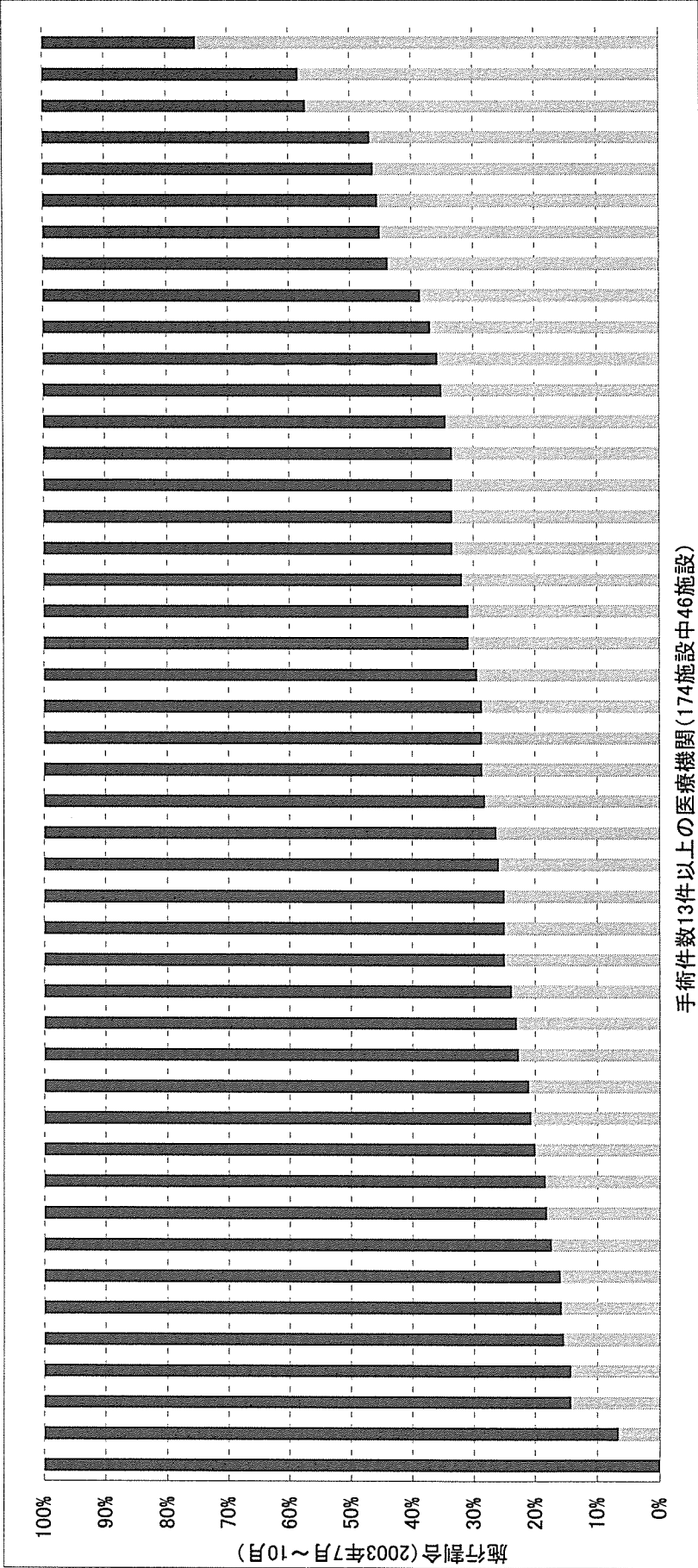
骨折観血的手術[DPC手術コード:02、K0461]

【コメント】

全体の9割に当たる157施設において、大腿骨近位骨折(全部位:頸部、転子部、骨幹部を含む)症例に対する手術治療が行われていた。手術治療を要する症例は4か月間で平均10例ほどであるが、中には60件を超えていた施設もあった。術式のうち、観血的手術は全体の72%を占めていた。

股関節大腿近位骨折(全部位)における手術施行割合(N = 981)

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル										
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
股関節大腿近位骨折	骨折観血の手術 施行割合	70%	14%	25%	100%	45%	54%	65%	71%	79%	84%	86%
	人工骨頭置換術 施行割合	30%	14%	0%	75%	14%	16%	21%	29%	35%	46%	55%



【図の説明】

手術件数上位25%の施設を解析対象(手術件数:13件以上)とした。

■ : 人工骨頭置換術 [DPC手術コード:01]

■ : 骨折観血的手術 [DPC手術コード:02、K0461]

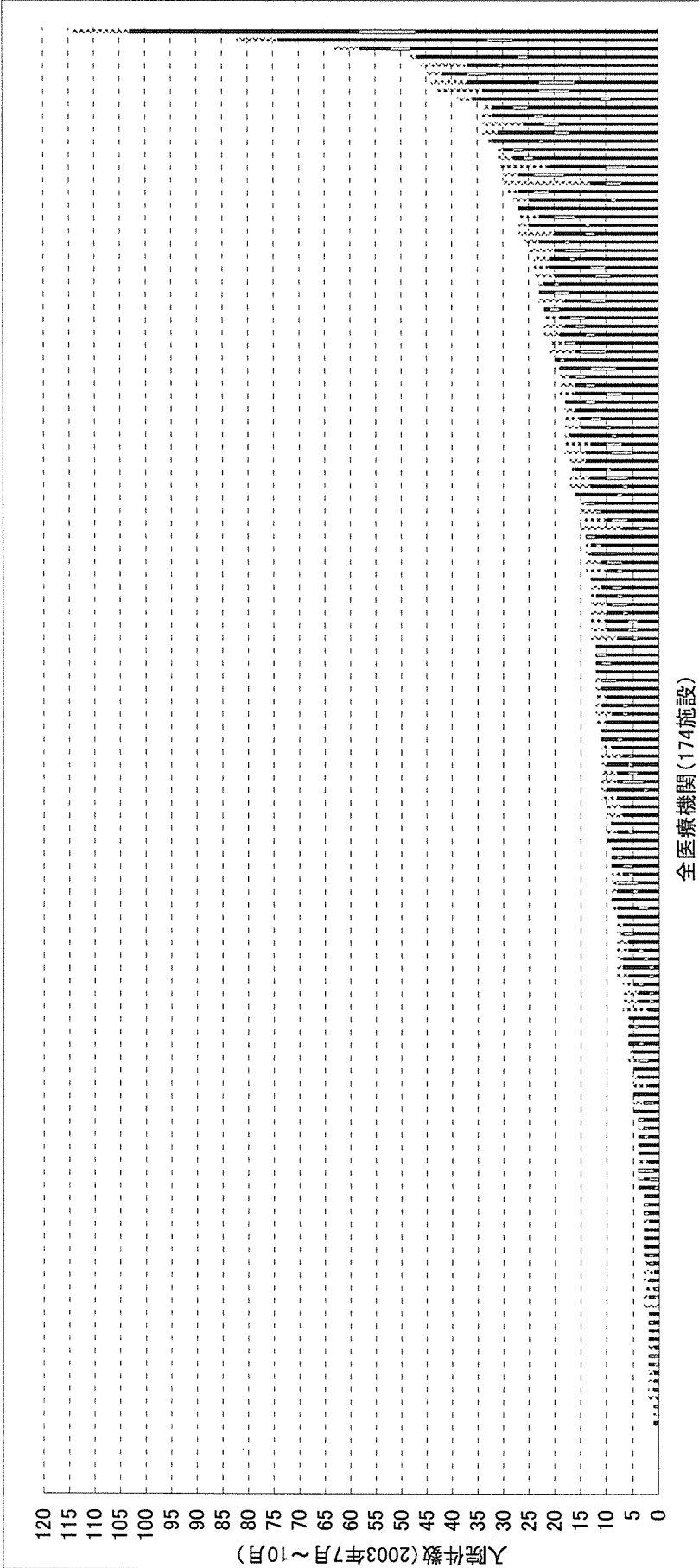
【コメント】

4か月間の手術件数が13件以上であった46施設を解析対象とした。大腿骨近位骨折(全部位:頸部、転子部、骨幹部を含む)における術式を「人工骨頭置換術」と「骨折観血的(整復内固定)手術」の二つに分類したところ、全体的には、関節外骨折に対する手術である骨折観血的手術が70%を占めていた。術式の内訳は施設間で大きなバラつきがあり、観血的(整復内固定)手術の割合は25%から100%まで分布していた。

股関節大腿近位骨折(全部位)における年齢・部位別入院件数

解析対象DPC番号の範囲 1608003

分類名	解析内容	入院件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
							5	10	25	50	75	90	95
股関節大腿近位骨折	その他骨折64歳以下	346	2.0	2.4	0	17	0	0	0	1	3	5	7
	その他骨折65歳以上	567	3.3	5.6	0	45	0	0	0	2	4	7	11
	頸部骨折64歳以下	242	1.4	1.6	0	11	0	0	0	1	2	3	4
	頸部骨折65歳以上	1,321	7.6	8.2	0	48	0	0	2	6	10	18	24



【図の説明】

：頸部骨折65歳以上[ICD-10: S720]

：その他骨折65歳以上[ICD-10: S721, S722, S727, S728, S730]

：頸部骨折64歳以下[ICD-10: S720]

：その他骨折64歳以下[ICD-10: S721, S722, S727, S728, S730]

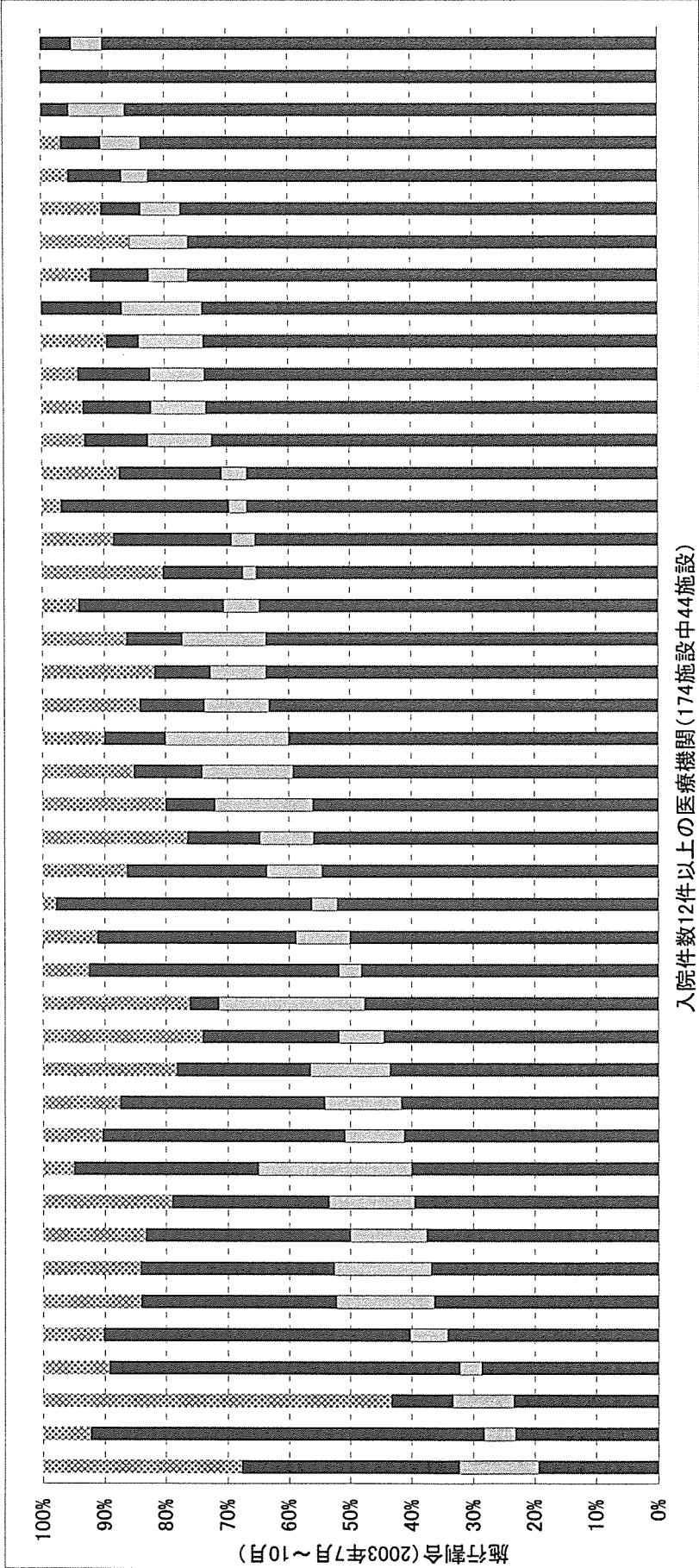
【コメント】

174施設中166施設(95%)において大腿骨近位骨折(全部位:頸部、転子部、骨幹部を含む)1件以上の症例があった。65歳以上の頸部骨折の症例が全体の53%を占めていた。その他部位における骨折の入院件数は平均値では3件であるものの、最大で45件の施設があり、その分布にバラツキがみられた。

股関節大腿近位骨折(全部位)における年齢・部位別入院割合 (N = 1,430)

解析対象DPC番号の範囲 1608003

分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
股関節大腿近位骨折	その他骨折64歳以下 割合	13%	10%	0%	57%	0%	2%	6%	11%	16%	23%	26%
	その他骨折65歳以上 割合	20%	15%	0%	64%	5%	6%	9%	13%	32%	40%	49%
	頸部骨折64歳以下 割合	10%	5%	0%	25%	3%	4%	6%	9%	13%	16%	19%
	頸部骨折65歳以上 割合	57%	19%	19%	90%	24%	35%	42%	60%	73%	81%	86%



【図の説明】

入院件数上位25%の施設を解析対象(入院件数: 12件以上)とした。

：頸部骨折65歳以上[ICD-10: S720]

：その他骨折65歳以上[ICD-10: S721, S722, S727, S728, S730]

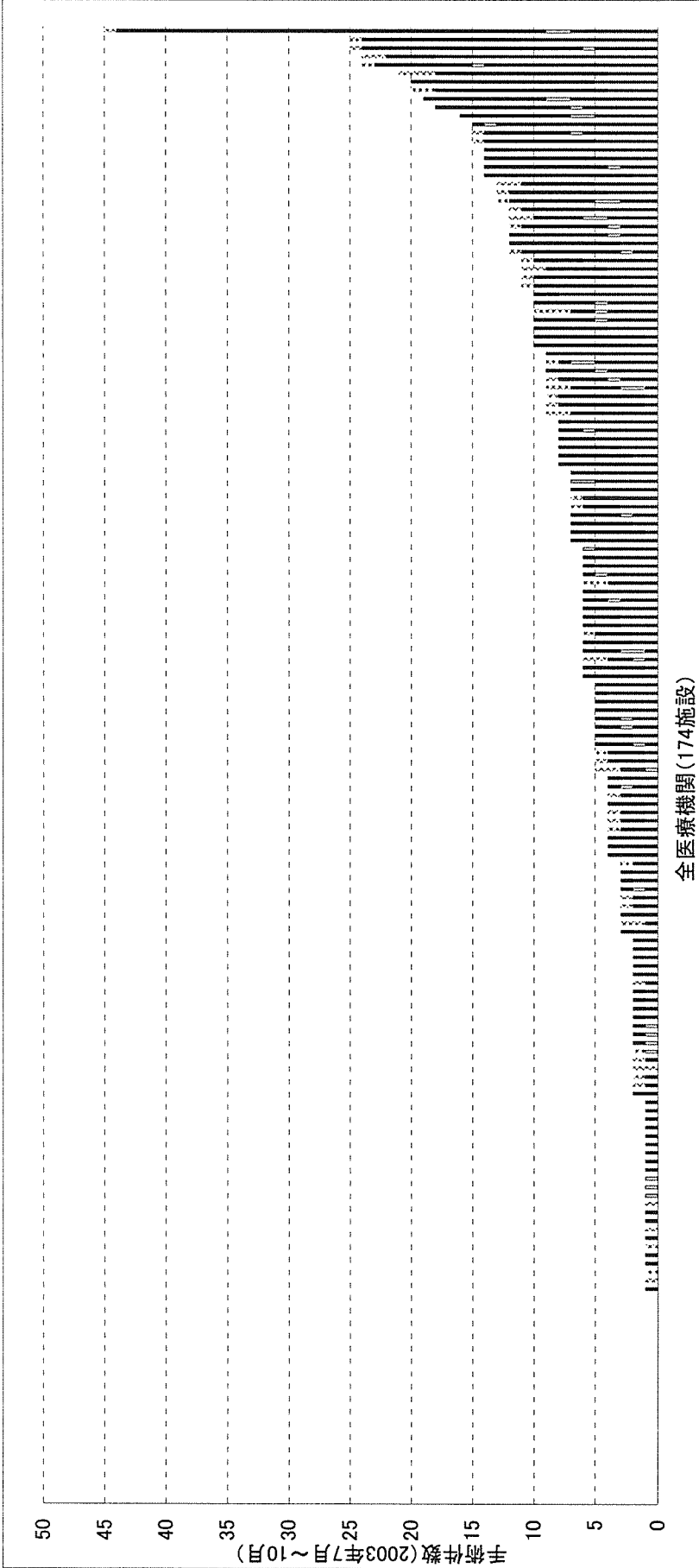
【コメント】

4ヶ月間の大腿近位骨折(全部位: 頸部、転子部、骨幹部を含む)の入院件数が上位25%に相当する12件以上であった40施設を解析対象とした。65歳以上では、頸部骨折がその他部位の骨折よりもおよそ3倍近くの割合を占めるものの、64歳以下では頸部とその他の部位とでは大きな差はなかった。

股関節大腿近位骨折(頸部のみ)における年齢・術式別手術施行件数

解析対象DPC番号の範囲 1608003

分類名	解析内容	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
							件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数
股関節大腿近位骨折	骨折観血の手術64歳以下	70	0.4	0.7	0	3	0	0	0	0	1	1	2
	骨折観血の手術65歳以上	531	3.1	4.3	0	35	0	0	0	1	4	8	10
	人工骨頭挿入術64歳以下	51	0.3	0.6	0	2	0	0	0	0	0	1	1
	人工骨頭挿入術65歳以上	393	2.3	2.9	0	18	0	0	0	1	4	5	7



全医療機関(174施設)

【図の説明】

頸部骨折を対象:ICD-10:S720

人工骨頭挿入術65歳以上[DPC手術コード:01]

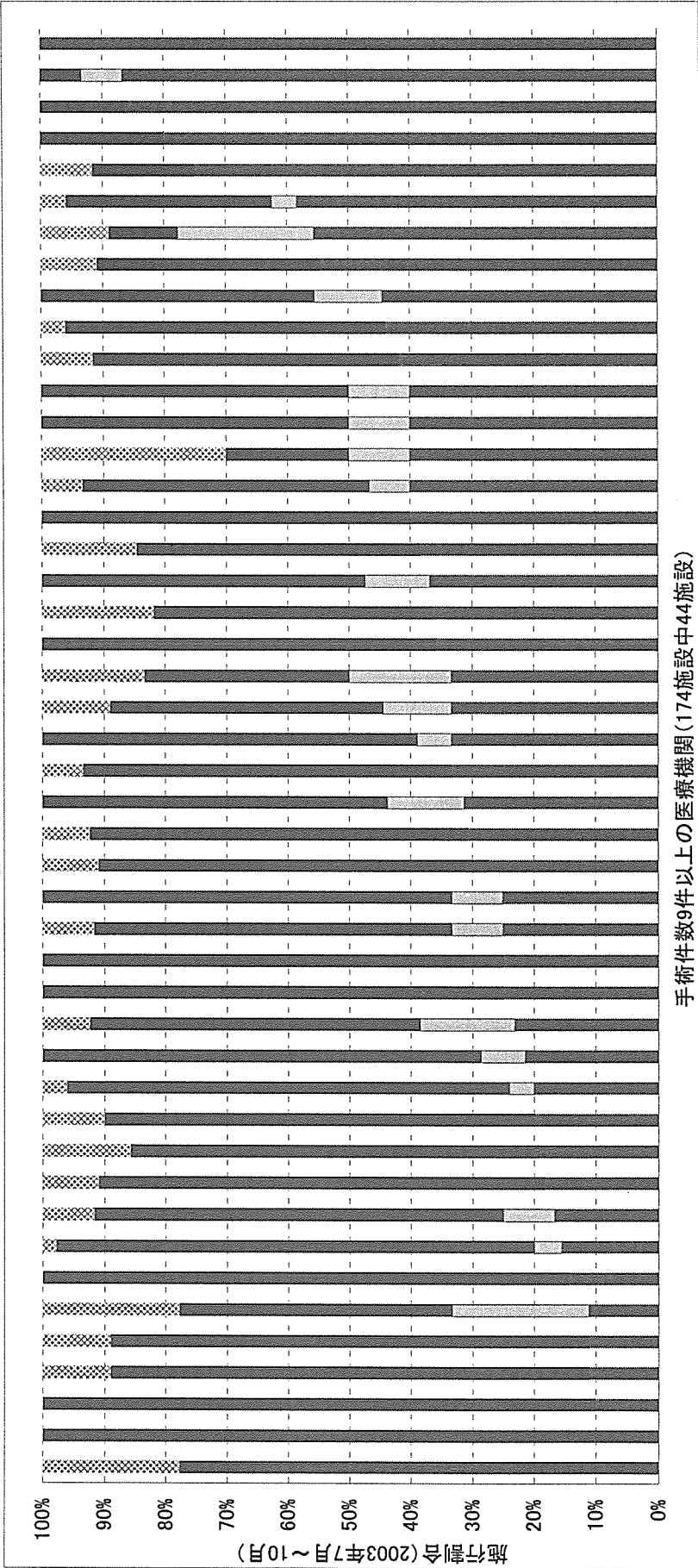
骨折観血的手術65歳以上[DPC手術コード:02かつKコード:K0461]

【コメント】

174施設中166施設(95%)においていずれかの手術が施行された。人工骨頭挿入術と骨折観血的手術の施行件数は、およそ4:6であり、65歳以上においても同様の割合であった。特に、65歳以上の骨折観血的手術の施行件数の分布はバラツキが大きかった(平均値:3.1、最小値:0件、最大値:35件)。

股関節大腿近位骨折(頸部のみ)における年齢・術式別手術施行割合(N = 655)

解析対象DPC番号の範囲		1608003												
分類名	解析内容		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95	
	股関節大腿近位骨折	骨折観血の手術64歳以下	割合	6%	7%	0%	30%	0%	0%	0%	5%	10%	16%	21%
		骨折観血の手術65歳以上	割合	54%	23%	0%	100%	12%	18%	44%	57%	71%	78%	84%
		人工骨頭挿入術64歳以下	割合	5%	6%	0%	22%	0%	0%	0%	0%	8%	12%	16%
		人工骨頭挿入術65歳以上	割合	35%	22%	0%	100%	10%	11%	20%	33%	40%	67%	84%



【図の説明】

手術件数上位25%の施設を解析対象(手術件数:9件以上)とした。ICD-10:S720

■:人工骨頭挿入術64歳以下[DPC手術コード:01]

■:人工骨頭挿入術65歳以上[DPC手術コード:01]

■:骨折観血的手術64歳以下[DPC手術コード:02かつKコード:K0461]

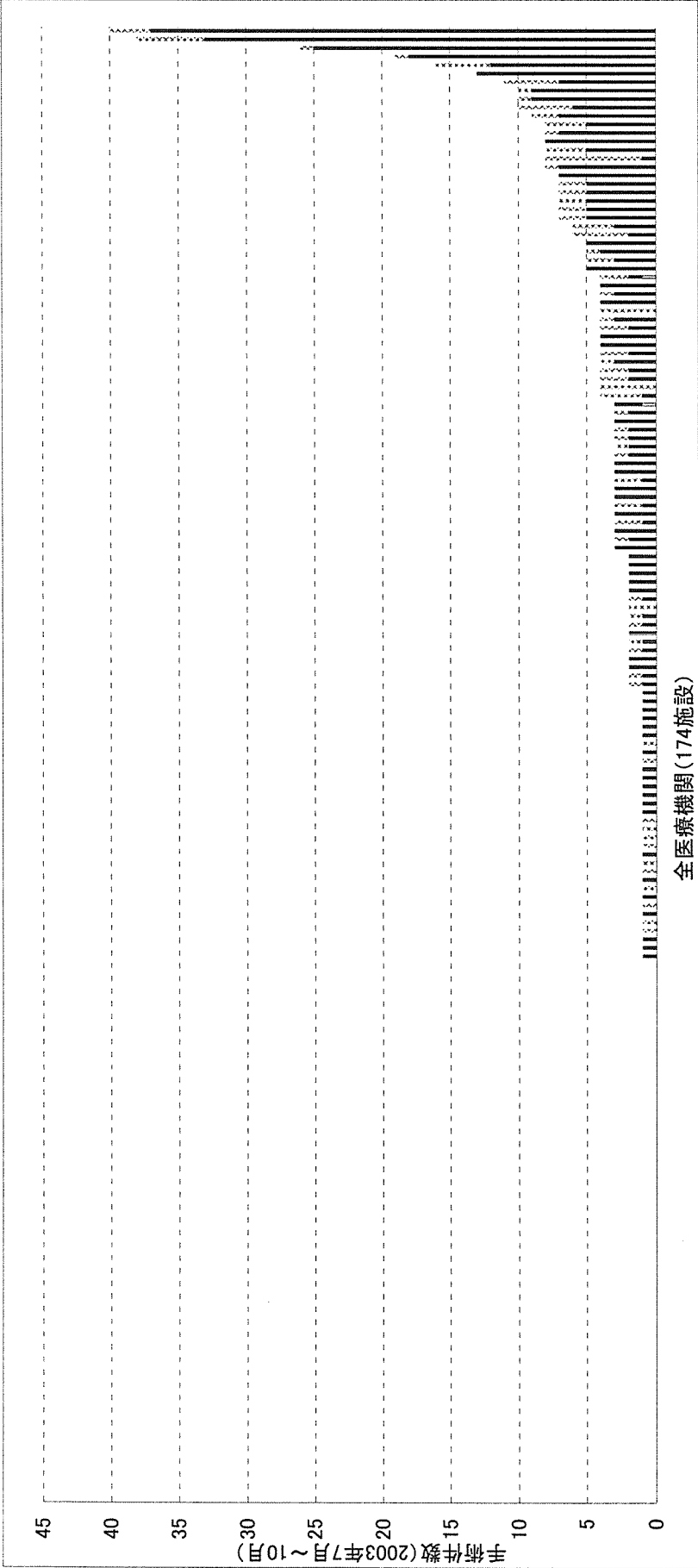
■:骨折観血的手術65歳以上[DPC手術コード:02かつKコード:K0461]

【コメント】

4ヶ月間の手術件数が上位25%に相当する9件以上であった44施設を解析対象とした。人工骨頭挿入術と骨折観血的手術の施行割合は4:6であり、65歳以上では、両術式ともに0%から100%の施行割合に分布しており、術式の選択に極めて大きなバラツキがみられた。また、年齢の分布は各施設において大差はみられなかった。

股関節大腿近位骨折(その他部位)における年齢・術式別手術施行件数

解析対象DPC番号の範囲 1608003														パーセンタイル				
分類名	解析内容		手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95				
股関節大腿近位骨折	骨折観血の手術64歳以下 件数		118	0.7	1.2	0	7	0	0	0	0	1	2	3				
	骨折観血の手術65歳以上 件数		377	2.2	4.7	0	37	0	0	0	1	2	5	7				
	人工骨頭挿入術64歳以下 件数		2	0.0	0.1	0	1	0	0	0	0	0	0	0				
	人工骨頭挿入術65歳以上 件数		5	0.0	0.2	0	1	0	0	0	0	0	0	0				



全医療機関(174施設)

【図の説明】

その他骨折を対象: ICD-10: S721, S722, S727, S728, S730

人工骨頭挿入術65歳以上 [DPC手術コード: 01]

骨折観血的手術65歳以上 [DPC手術コード: 02かつKコード: K0461]

【コメント】

174施設中149施設(86%)において1件以上の症例があった。その他の部位における骨折では、骨折観血的手術の施行件数は全体の98%を占めているが、7施設において1例のみの人工骨頭挿入術が施行されていた。骨折観血的手術の施行件数は平均4.7件であるものの、最大で37件が施行されるなど、施設間でのバラツキがみられた。